

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401962		
法人名	有限会社 山崎グループ		
事業所名	グループホーム 恵の里		
所在地	長崎県南島原市有家町中須川433番地		
自己評価作成日	令和5年8月25日	評価結果市町村受理日	令和5年11月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和5年11月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様と御家族様と施設が一体となった心の通じ合う温かな介護施設を目指している。日頃の生活状態を心豊かに過ごすために、心のケア担当制を試みている。施設では必要な知識や教養を学ばせ、長年の経験だけでなく、時代のニーズに応じている。令和3年度は特に「利用者様中心の介護に努め、正確に役立つ。」ことを提唱し行く紳士枝居るがプライドを戦わせるときもあった。利用者様に優しい声かけ、優しい言葉使いで「優しさ」「笑顔」「真心」がこもった対応で安心できる施設と各種のボランティア活動やコミュニティの場として提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫:(評価機関記入)】

ホームの家庭菜園では季節の野菜を作り、入居者と一緒に水やりや収穫を行い、施設長が旬の食材を調理し、食卓に並べている。廊下には恵みストリートと称し、行事等の写真を貼り入居者の様子を伝えている。カラオケが好きな入居者はフロアのカラオケ機器で歌を唄ったり、趣味活動を行うなど思いおもいに過ごされている。夫婦で入居している方がおり、居室間を行き来できるような環境を整えている。ホームは看取り支援を行っており、医療と連携しながら、看取り後は葬儀社と一緒にエンジェルケアを施し、おくり人の役割も担えるよう努めている。看取りを終え、家族から喜びの声を聞くことが私たちの喜びであることを代表は職員へ伝えている。管理者は家族に対し、いつでもホームを見に来てくださいと声を掛け、地域の祭りに合わせて家族を集めバーベキューや花火を見ながら交流を深めるなど家庭的で開かれたホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホーム 恵の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員は介護理念に基づき、日常的に取り組んでいる。毎月2回行われる会議前に前日の夜勤者が音頭をとり司会をしている。	ホームの入り口や事務所、リビングに誰もが目につくような場所に理念「笑顔、優しさ、真心」を掲げている。毎月5がつく日には職員会議を開催し、理念を唱和すると共に実践状況や個人目標を確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員は近隣の方への挨拶を欠かさず行い、地域清掃や、地域ボランティアにも積極的に参加している。特に水路の環境整備に力を入れている。地元の行事にはコロナ対策はあるが参加できていない。	コロナ禍で地域との交流を自粛しているが、以前はホームへ神社神輿の御下りに来てもらい、入居者と交流したり、賑わいを楽しんでもらうなど取り組んでいた。ホーム近隣には田畑が広がり、旬の野菜を貰うなど日常的な関係づくりができています。職員が近隣の河川清掃に参加するなど地域の一員として取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	災害の避難場所として機能している。また災害時の避難炊煙や緊急時の対応訓練を行い、地域の方々が困っている時に安心して利用できるような開けた施設。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の生活の様子や施設の近況、行事などの報告、研修等の報告、さらに研修等事前に作成した資料を基に協議している。	運営推進会議は家族代表、民生委員、行政書士、ホームからは社長、専務等が参加している。入居者の近況報告、行事報告がなされ、委員の意見や助言内容を記録に残している。	運営推進会議でホームの身体拘束に関する取り組み状況も会議に諮り、議事録に残しておくことが望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話、FAX、訪問等の手法で連携を図っている。特に行政とは密接な関係を築き、指導助言を頂いている。	市からコロナ禍による感染対策に関する用具の支給や、生活保護課の職員への説明等、密な関係を築き協力している。地域包括支援センターなどの関係機関と情報交換し連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年4回身体拘束会議に実施、施設内で高齢者虐待委員会を設置している。	直近では10月25日にオンラインにて身体拘束・虐待に関する研修を職員が受講している。年4回、身体拘束について内部研修を実施している。虐待防止の研修では職員が代替役となり実技・事例研修を行っている。研修後には職員が研修レポートを作成・提出し、管理者は各職員の理解度を確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「介護職員の言葉遣い」について、徹底指導を実施している。また、勝手な判断をさせない複数下記人の手法で虐待防止を推奨している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修元は開催した権利擁護研修会に参加して職員へ周知した。各担当者は利用者様の個々との関係性関係性を築くためにはppylぼの場を設け		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	担当は施設長や管理者が行い、契約を行っている。また各所同意が必要なものについては内容を打ち合わせの上、ご確認いただき理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様のみならず外部の方からも意見等頂き、安くするにはアンケートボックスの設置を行っている。その他口頭での要望あった場合があった場合は、スタッフが記録書に記載し、介護で報告し虚偽している。意見の回答について、その都度解決している。	管理者は家族に対し、いつでもホームを見に来てくださいと声を掛けている。面会時間も柔軟に対応している。地域の祭り(ありえ浜んこら祭)に合わせて家族を集めバーベキューや花火を見物しながら交流を深め、率直な意見交換を行い、運営に活かしている。	第三者(外部)評価受審状況を重要事項として家族等に説明することが求められており、重要事項説明書において第三者(外部)評価の受審状況が分かるように、第三者(外部)評価実施の有無、評価実施日、評価機関名、評価結果の開示状況を記載するとともに、説明時には受審に合わせて家族へのアンケートへを実施することを伝え、家族の意見をくみ取る機会となることを説明し、今後の運営に反映することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員会議前日までに協議したものをまとめ発言してもらっている。全職員で確認しあっている。	コロナ禍で地域交流を自粛している中で、職員意見を取り入れ、地域神輿の代わりに職員がホーム内で踊りや催しを企画するなど職員会議を通じて職員の意見や提案を聞く機会を設けている。シフト作成時には職員の希望休を聞き取り、資格取得の為に希望の有給休暇の消化等に努めている。職員の資格取得を奨励し、受講資金の援助等、介護スキルの向上に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善加算を有効に活用している。また職員が休憩できるよう開放している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員にとって弱みがあるところを個々に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	多色会議等への参加してもらっている。そこで同業者や多職種との交流があっているようだ。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に個々に見学会をし、話し合い、解らないことや聞きたいことを頂き、安心を意識してもらう努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様に配慮し個室で面談を行う。個人情報やプライバシーに気を使い、情報提供以外の内容については施設長との直接のヒヤリングを行っている。その内容は担当者に告げられ、その内容は担当者に告げられ、ケアの内容に反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居から1週間は利用者利用者の行動を把握する為生活記録報告書を作成。アセスメントを行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	希望し入居される生活上の支援を一緒に行うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の近況は月2回の職員会議で報告しており、その内容を必要に応じ家族に必ず報告している。全職員がその際に共有しているので、担当者以外でも様子を報告できる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族の意向により、、友人知人への関係性の構築の要請があれば対応している。その際一緒に手紙を書いたり、電話の支援をしたりして、期待に応えている。	コロナ禍で馴染みの方との交流ができないことが多くあったが、今後は入居者が制作した鶴を模した作品をありえコレジヨホールに展示を予定したり、趣味活動の再開や、家族や友人を招いて交流を検討するなど、管理者は、今後、馴染みの人や場と交流を再開する意向である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の拝領については、担当職員同士が協議し、偏った対応にならないようバランスをとっている。T者とのコミュニケーション時間を設定し孤立しない方法を作り、メリハリをつけることでトラブル解消している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人や家族へのフォローアップは、施設のイベント等への案内しながら節目まで行っている。また家族や本人からの相談・支援の要請があれば行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員は利用者様の意思を正確に対応するため、一人で判断することなく複数での確認を行っている。利用者様・ご家族・管理者の意見をまとめ、会議等で報告し、実施している。	入居者それぞれに担当職員を決め、本人の意向の把握に努めている。入居者の意向や状態等は職員間で共有しながら支援している。担当職員が入居者の日々の支援に責任を持ち、定期的に入居者の生活状況を記した手紙を家族へ送り家族の安心感に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	既往歴、生活歴等を本人・又は家族等から聞き、本人らしい生活になるように繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	残存機能の活用はもちろんのこと、できることに着目した支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画、実践、見直しのサイクルで支援し、利用者に合った介護計画になっていくよう、随時ケースカンファレンスを行っている。	定期的に介護支援専門員が担当職員や管理者から入居者の状態や意見を聴き取り、介護計画を立案している。日々の記録に介護目標を分かりやすく記載し、目標に沿った支援や課題を確認できるよう工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人一人に担当職員を付け、ケースカンファレンス等の会議の場で他職員からの気づきや情報等を担当職員が集約して、プランに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のご意向に耳を傾け、本人らしく楽しく日々を過ごして下さるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物や地域での催し物など利用者から要望があれば、現場スタッフ付き添いで要望に応えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本、施設へかかりつけ医が往診にくるようになっているが、そのほかの医療機関に専門医がいる場合は通院介助も行っている。	医療連携と訪問看護を利用し、毎日、午後より協力医が訪問して入居者1名ずつ診察を受け、バイタルチェック、身体状況の観察等、健康管理を行っている。また、入居前のかかりつけ医の継続受診も支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携で24時間いつでも異常時には看護師と連絡がとれるようになっている。週1回の訪問指導で情報の共有をし指示を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、施設で過ごされていた時の状態などを伝え、入院中は洗濯物の交換などなるべく職員が病院に行くようにして、事前に状態変化などを把握できるようにしている。退院時は看護サマリと現場の看護師の指示をもらうようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用契約時に重度化の指針の同意者を頂きますが、重篤な状態になった場合再度説明を行って、本人又は家族から要望があれば看取りも対応している。	入居時と看取り期にホームの方針を説明し、家族の意向を把握している。看取り後は葬儀社と一緒にエンジェルケアを施し、送り人の役割も担えるよう努めている。看取りを終え、家族から喜びの声を聞くことが私たちの喜びであることを代表は職員へ伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2回は消防署隊員立ち会いで救命救急の訓練を行って職員の誰もが応急手当が出来るように準備して。自施設にはAEDを備え付けていないが、食事中、食べ物を喉に詰まらせた利用者が窒息状態になり救急連絡から救急車到着まで、心肺蘇生と応急処置で命を救ったケースもある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年に2回は消防署隊員立ち会いで避難訓練及び消火訓練を行って対応できるようにしている。ハザードマップで避難場所・経路を周知して対応できるようにしている。	避難訓練消防訓練・地震・夜間を想定した訓練を年4回(6月・8月・11月・2月)実施している。自衛消防を組織し、コロナ禍以前の訓練時には地域の方に声掛けして入居者の見守りの協力を依頼していた。ハザードマップ、避難経路図を廊下、玄関、居間等、誰もが目に付く場所に掲示し、常に災害に備えた意識づけを図っている。備蓄品は3日分を目途にホーム居間にて保管している。	今後、コロナ禍収束を見据え、近隣の地域住民に対し、訓練時の入居者の見守り・協力を再開することを期待する。また、現在、BCP(業務継続計画)の策定を進められており、今後、当BCPに沿った研修、訓練(シミュレーション)の実施を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊厳し介護に努めている。なれや島原独自の方言から汚い言葉に感じ取られることもあると思う。言葉遣いは職員の質の向上の為に日頃からのテーマにしていく。	年間研修計画を立て身体拘束・虐待防止のほか、5月・11月には接遇マナー研修を職員が受講している。職員は入社時に個人情報保護に関する誓約書にサインしている。言葉づかいが気になる場面があることを管理者は把握しており、今後も職員間で課題として共有しながら職員の質の向上に努める意向である。	管理者及び職員も含めて言葉づかいが気になる場面があることを課題と捉えており、引き続き接遇研修等で研鑽し、方言を用いながらも入居者へ敬意を払った対応や言葉づかいを意識した支援に期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意見や要望があればなるべくそれに答えられるよう取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の作業的な流れで過ごすのではなく、個人が今までされてきた習慣や日課を大切にしように添った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自由に行動できない寝たきりの方でも、日中と就寝時は衣服を替えるようにしている。女性であれば毎日化粧したり、アクセサリーを身につけたりする方もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前は、食事の配膳・下膳と食器洗い、食事の具材の皮むき等を手伝われる利用者もいたが、高齢とレベル低下の利用者が多く、手伝われる利用者はいない。	代表が食材の調達と朝食・昼食を調理し、夕食は外部に委託している。糖尿病の方には減塩食のほか必要に応じてトロミ・キザミ食を提供している。季節の行事や誕生日などには行事食やケーキを準備するなど本人の嗜好も確認して提供し、食事を楽しめるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一週間の献立表を記録し、時に栄養士に見てもらいアドバイスをもらって調整している。糖尿病や腎臓病等の低カロリー食事の提供も個別に行っている。水分チェック表に一人一人の摂取量を記録し、看護師指示にて調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い清潔を保持している。必要に応じ介助にて行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ケアプランの中にトイレ誘導が必要な方の時間を入れ周知して支援している。オムツ使用者は排泄が確認されたらすぐ交換し、常に清潔が保持されるよう支援している。	入居者毎の排泄チェック表に記録を残し、排泄パターンを把握している。水分摂取量や排尿量の把握、排便の把握をして、便秘が続く方には看護師とも連携して指示を得ている。夜間帯には居室にポータブルトイレを置き、スムーズに排泄できるよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排尿・排便を把握し2日排便なし時は3日目朝に看護師に連絡し、看護師指示にて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	いつのタイミングでも入浴出来るようにしている。要望に合わせてシャワー浴のみの利用も可能。入浴拒否される利用者でも最低3日に1回は入浴していただくよう促している。	入浴は3日1回を基本としているが、入浴の準備は毎日行っている。冬場は特に寒暖差に配慮し、脱衣室の温度調整を適宜行っている。柚子湯や菖蒲湯を準備し季節感を愉しめるよう工夫している。入居者個々の希望に応じ、入浴を拒否する方には無理強いしない入浴支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本、日中はリビングで過ごしていただくが、その日の体調や個人のリズムに合わせて、自室で休んでいただくこともできる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	呑み忘れ、重複服用がないよう服薬管理は職員が行っている。服薬前には何の薬かを伝えて服薬して頂くようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除の手伝い、洗濯物たたみ、食器洗い、野菜の皮むき、草むしり等、本人ができる範囲で協力し役割を持って過ごして頂くこともある。地域催し物の参加やドライブ支援で気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な外出支援以外でも要望があれば随時対応いたします。	コロナ禍により外出支援ができていなかったが、今後はホーム全体で市の催しである初市や産業まつりに参加できるよう検討している。近隣の家庭菜園にトマトを植え収穫したり、犬の散歩を兼ねてホーム周辺を散歩したり、クリスマスのイルミネーションを装飾するなど入居者が楽しめるよう工夫し、気分転換が図れるよう配慮している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当ホームでは金銭管理は行っていない。おこずかい程度のお金を持って自由に使用される方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	【恵の里たより】を、3ヶ月に1回は作成し家族に郵送で配布している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な空間で、利用者が心地よく過ごせる環境を整備している。食器や寝具も馴染みの物を自宅から持ち込み可能。居室も殺風景にならない様、独自の好きなものを飾れる。	毎朝、早出職員がホーム内を清掃・換気し、清潔保持に努めている。共用フロアには季節の装飾を施し、また、廊下には恵みストリートと称し行事等の写真を貼りホームの入居者の様子を伝えている。ホーム全体が明るく、家庭的な雰囲気でも不快や混乱を招くような刺激はない。カラオケが好きな入居者はフロアにあるカラオケ機器で歌を唄ったり、趣味活動を行うなど思いおもいに過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中は、皆さんでリビングにてカラオケや体操をして過ごされるが、自室で自由に過ごすこともできる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込むことが出来るので要望があれば対応します。畳の部屋配置。	夫婦で入居している方がおり、居室間を簡単に行き来できるよう環境を整えている。入居者が以前から大切にしていた物品を配置し、安心して暮らせるよう支援している。看取り期には家族が居室に宿泊できるようにしている。冬場は加湿器を各居室に配置して対策を講じている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで段差がない。廊下サイドには手すり。補助具・補装具・車いす・押し車等使用しやすい。残存機能をフル活用して頂いて、自立支援に繋げている。		